

地域と連携したプロスポーツチームの食育の取組

国内のプロスポーツチームでは、農業体験等の食育の実践、地域活性化や農業振興等の地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。また、プロスポーツチームと行政や企業、団体等が連携し地域で食育を実践しています。こうした活動を通して、様々な世代の人に「食」への関心を持ってもらうきっかけづくりとなるような取組事例について紹介します。

地域と密着した農業プロジェクト（第8回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞）

株式会社松本山雅^{まつもとやまが}（長野県）

株式会社松本山雅は、本拠地である長野県松本市の農地の有効活用や地域における農業技術の継承等の課題に直面する中で、市内の農業従事者、直売所、及び障がい福祉サービス事業所と共同で「スマイル山雅農業プロジェクト」を発足しました。

本プロジェクトでは、松本市、安曇野市^{あづみの}、生坂村内の遊休農地を活用し、青大豆「あやみどり」^{いくさむら}を栽培しています。プロサッカーチーム松本山雅FCの選手やサポーター等多くの方々が協力し、「遊休農地の活用」、「地域住民の交流活性化」、「青少年の育成」を図り、地域が直面する課題の解決にチャレンジしています。例えば「遊休農地の活用」では、毎年6月頃に青大豆「あやみどり」の種まきを行い、9月頃には枝豆の収穫、11月頃には大豆の収穫を行っています。採れた青大豆「あやみどり」は、障がい福祉サービス事業所にて選別し、地域の保育所、幼稚園、認定こども園¹、小学校の給食やおやつとして提供されています。「地域住民の交流活性化」では、保育所や幼稚園、認定こども園へ、松本山雅FCオフィシャルマスコット「ガンズくん」の手紙を添えた大豆の種を提供し、食育絵本「ガンズくんとあやみどり」を保育所、幼稚園、認定こども園、小学校へ寄贈するなど、子供たちが農業や地元の農作物に関心を持ってもらうことに力を入れています。さらに、地域への理解とつながりを持つきっかけとなることを目的に、松本山雅FCトップチームの選手の新人研修の一環として、選手自らが青大豆「あやみどり」の種まきや枝豆の収穫、枝豆を使ったメニューを考案し、スタジアムでの販売等を行っています。

このような取組を通じて、給食やおやつを通して子供たちへ採れた大豆を食べる機会を作れていること、障がい福祉サービス事業所へ選別等の作業を行った分の工賃をお支払できていること、更には課題であった遊休農地の解消に成功し、農家の方々が喜んでくれていること等の成果が生まれています。

今後も、地域の皆様やファン・サポーターの皆様と共に地域での活動を広げていき、食育活動に取り組んでいきます。



地域の子供と選手が種まきしている様子



給食で「あやみどり」を食べる様子

1 就学前の子供を保育の必要の有無にかかわらず受け入れ、教育と保育を一体的に提供する、いわば幼稚園と保育所の両方の機能を併せ持ち、保護者や地域に対する子育て支援も行う施設